

ヒノエウマの年(昭和41年)に次ぐ低出生率 ……………

3. 人口動態

(1) 自然動態 ～41年のヒノエウマの年に次ぐ低出生率～

昭和55年中の自然増加は18,976人(男9,272人,女9,704人)で,増加率は0.8%である。これの内訳をみると,出生は35,712人(男18,286人,女17,426人),死亡16,736人(男9,014人,女7,722人)となっている。

この自然増加の推移をみると,出生については昭和48年をピークとしてその後減少を続けており,48年の出生率18.9%に比較すると本年の出生率はこれを4.7ポイント低下の14.2%となった。これは41年のヒノエウマの年の出生率12.1%に次いで低いものとなった。一方,死亡については昭和46年以降年々減少傾向を示していたが本年はわずかながら前年(6.5%)を上回り,6.6%の死亡率となっている。

自然増加を市郡別にみると,市部の増加は前年(11,956人)に比べ1,656人減少の10,300人(増加率0.8%),郡部は前年(9,402人)に比べ726人減少の8,676人(増加率0.7%)となっている。これを出生,死亡別にみると,出生率では市部14.1%(前年15.5%),

表一七 自然増加率の高い市町村(1.1%以上) (単位:人,%)

市町村	自然増加数	自然増加率	出生率(%)	死亡率(%)
鹿島町	621	1.6	21.2	5.1
千代田村	299	1.5	20.8	6.2
桜村	458	1.5	18.4	3.7
勝田市	1,145	1.3	16.4	3.8
神栖町	399	1.2	16.8	4.6
取手市	793	1.1	15.3	3.9
総和町	375	1.1	16.0	5.5
荃崎村	171	1.1	16.4	5.2

※ 外国人は含まない。

表一八 自然増加率の低い町村(0.0%以下) (単位:人,%)

町村	自然増加数	自然増加率	出生率(%)	死亡率(%)
水府村	△ 35	△ 0.5	7.3	11.8
瓜連町	△ 27	△ 0.4	7.3	11.1
緒川村	△ 20	△ 0.4	8.4	12.1
金砂郷村	△ 33	△ 0.3	6.8	9.8
桂村	△ 13	△ 0.2	9.4	11.3
美和村	△ 12	△ 0.2	10.2	12.2
御前山村	△ 4	△ 0.1	10.6	11.4

※ 外国人は含まない。

表一九 地域別,自然増加・出生・死亡数

(単位:人,%)

地域		51年			52年			53年			54年			55年		
		自然増加	出生	死亡	自然増加	出生	死亡	自然増加	出生	死亡	自然増加	出生	死亡	自然増加	出生	死亡
県	人員	22,713	39,393	16,680	22,214	38,469	16,255	21,553	37,938	16,385	21,358	37,394	16,036	18,976	35,712	16,736
	率	1.0	16.5	7.0	0.9	15.9	6.7	0.9	15.4	6.7	0.9	15.1	6.5	0.8	14.2	6.6
県北 平坦	人員	8,743	12,960	4,217	8,272	12,390	4,118	8,068	12,176	4,108	7,683	11,748	4,065	6,569	10,759	4,190
	率	1.2	17.5	6.0	1.1	16.6	5.5	1.1	16.0	5.4	1.0	15.4	5.3	0.9	14.0	5.4
県北 山間	人員	1,185	3,839	2,654	1,381	3,965	2,584	1,271	3,845	2,574	1,079	3,673	2,594	935	3,633	2,698
	率	0.4	12.7	8.8	0.5	13.1	8.6	0.4	12.7	8.5	0.4	12.1	8.6	0.3	12.0	8.9
鹿行	人員	2,500	4,150	1,650	2,468	4,067	1,599	2,355	3,938	1,583	2,384	3,930	1,546	2,154	3,818	1,664
	率	1.1	18.0	7.2	1.1	17.5	6.9	1.0	16.8	6.8	1.0	16.7	6.6	0.9	16.1	7.0
県南	人員	5,496	9,873	4,377	5,610	9,820	4,210	5,508	9,942	4,434	5,809	10,043	4,234	5,493	9,926	4,433
	率	0.9	16.0	7.1	0.9	15.5	6.7	0.8	15.1	6.7	0.9	15.1	6.4	0.8	14.3	6.4
県西	人員	4,789	8,571	3,782	4,483	8,227	3,744	4,351	8,037	3,686	4,403	8,000	3,597	3,825	7,576	3,751
	率	1.0	17.3	7.6	0.9	16.4	7.5	0.9	15.8	7.3	0.9	15.7	7.1	0.7	14.7	7.3

※ 外国人は含まない。

(注) 自然増加率は%である。

昭和55年茨城県の人口(下)

郡部14.2%(前年14.8%)となり、前年よりいずれも低下している。また死亡率では市部5.8%(前年5.6%)、郡部7.5%(前年7.3%)となって前年を上回る結果となっている。

地域別の動態では、自然増が前年より増加した地域は、県南(1,059人増5,493人)、県西(139人増3,825人)となり、減少した地域は県北平坦(1,114人減6,569人)、鹿行(230人減2,154人)、県北山間(144人減935人)となっており、前年増加した鹿行(29人増)は本年は減少となった。これを出生、死亡別にみると、出生率では鹿行16.1%(前年16.7%)、県西14.7%(前年15.7%)、県南14.3%(前年15.1%)、県北平坦14.0%(前年15.4%)、県北山間12.0%(前年12.1%)の順となり、最も出生率の高い鹿行は鹿島郡が17.0%と高い率となっている。一方死亡率は県北山間が8.9%(前年8.6%)と最も高く、以下県西7.3%(前年7.1%)、鹿行7.0%(前年8.6%)、県南6.4%(前年6.4%)、県北平坦5.4%(前年5.3%)の順となっている。

なお県内92市町村のうち自然増加したのは84市町村(前年86)、減少したのは8町村(前年6)である。

(2) 社会動態

ア 社会動態の推移 ～増加を続ける県南の社会増～

昭和55年中の社会動態をみると、移動総数244,347人(転入134,025人、転出110,322人)で、前年(250,800人)に比較して6,453人の減少となっている。

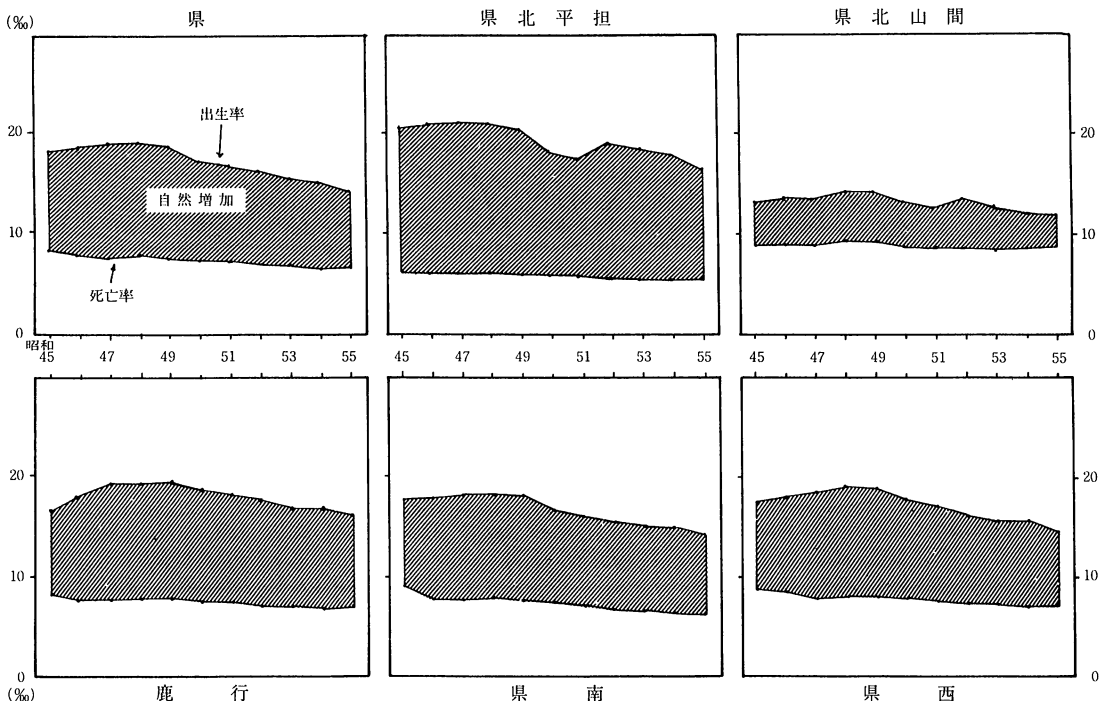
年次別推移をみると、昭和30年後半から42年までの社会動態は転出超過であったが、43年に転入超過となって社会増に転じ、更に53年には社会増加が自然増加を上回り、社会増加が本県の人口急増の要因となっている。

県人口に対する55年中の社会増加率は0.9%で、人口増加総数の55.3%にあたる。

社会増加の主な原因としては、県南の人口急増に伴うもので、1の(2)のウ、「市郡別人口」で述べたように、首都通勤圏としての県南への人口流入増によるものと考えられる。

本県5地域別の移動数をみると、県南が県全体の36.4%を占め、次いで県北平坦の30.0%、県西15.2%、鹿行9.5%、県北山間8.9%の順となっている。また社会増加

図一〇 地域別自然動態(昭和45～55年)



調査から

率では、県南が3.0%(前年3.8%)と前年に引き続いて高く、前年転出超過であった鹿行(前年△0.2%)は転入超過(0.4%)に転じている。

なお、昭和54年中の全国の移動状況を見ると、転入超過は21県で、他の26都道府県は転出超過となっている。社会増加の最も高い県は奈良県の1.9%、以下千葉県1.5%、茨城県1.0%、埼玉県0.9%、滋賀県0.9%と、東京や大阪周辺の県が上位を占めている。一方減少都道府県をみると、東京都(1.1%)、長崎県(0.6%)、大阪府(0.4%)、岩手県(0.4%)、秋田県(0.4%)の順となり、特に東京都の社会減少率は48年以降全国一を続けている。

イ 転入・転出 ～東京・千葉との交流が45%～

昭和55年中の移動総数 244,347人のうち、県外との交流は55.7%にあたり、移動数は136,218人(転入79,933人、転出56,285人)で、転入差引増減は23,648人の転入超過となり、前年(転入超過26,696人)に比べ3,366人の減少となっている。

県外のうち、関東近県との移動状況を見ると、交流が

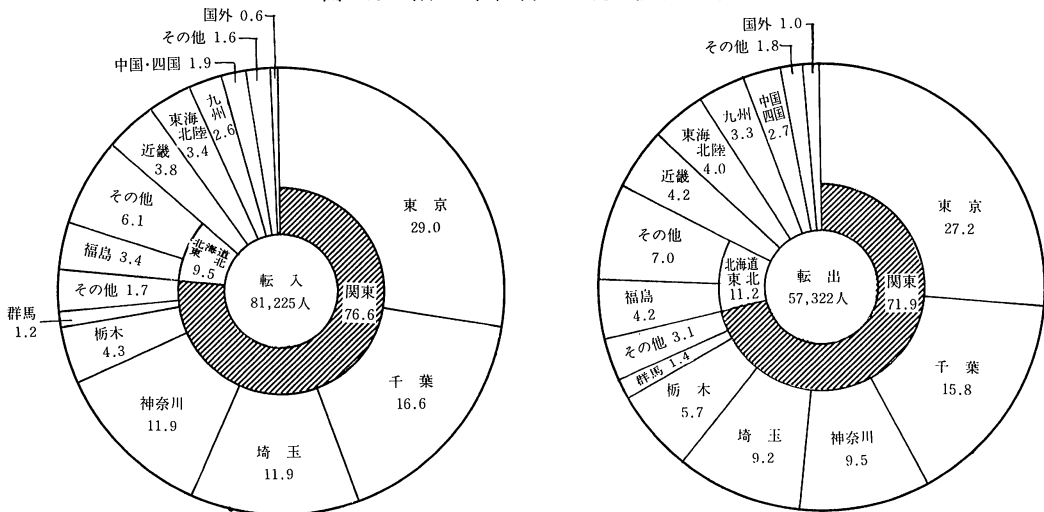
最も多いのは東京都で、県外移動総数の28.7%(39,087人)となり、次いで千葉県の16.5%(22,523人)、神奈川県11.1%(15,156人)、埼玉県10.4%(14,188人)、栃木県4.9%(6,696人)となっている。

地域別にみると、県南が42.1%(57,369人)を占め前年に引き続いて最も高く、県北平坦25.4%(34,553人)、県西16.2%(21,971人)、鹿行9.6%(13,083人)、県北山間6.8%(9,242人)の順となっている。

人口移動を月別にみると、進学、就職及び勤労者の転勤期である3～4月が例年のとおり最も多く、他の月はほぼ平均化した動きとなっている。

市町村別の社会動態をみると、転入超過は11市40町村で、県南4市17町村、県北平坦2市9町村、県西4市6町村、鹿行6町村、県北山間1市2町村と、県南、県北平坦及び県西の市町村に多く、また増加率の高い市町村は、利根町(20.4%)が最も高く、以下荃崎村(12.6%)、伊奈村(9.2%)、桜村(9.0%)、谷田部町(8.0%)、牛久町(7.9%)、藤代町(5.4%)の順となり、いずれも首都通

図一〇 昭和55年県外転入出先別移動人員割合



北海道・東北：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
 関東：栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野、静岡
 東海・北陸：新潟、富山、石川、岐阜、愛知、三重

近畿：福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
 中国・四国：鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
 九州：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

勤圏域並びに筑波研究学園都市としての人口流入によるものが多い。また転出超過は7市34町村で、県北山間3市12町村、県西2市7町村、県南7町村、鹿行6町村、県北平坦2市2町村となり、社会減少の多い市町村は里

美村(1.4%)、大洗町(1.3%)、大子町(1.2%)、美和村(1.2%)、水府村(1.1%)の順で、県北山間部に多い。

ウ 年齢階層別状況 ~15~24歳は転出超過~
移動者の年齢階層別では、総数244,347人のうち25~

表一10 地域別社会動態の状況

(単位:人,%)

地域	昭和56年1月1日 現在人口	移動数	移動率	社会 増加数	社会 増加率	昭和54年		
						社会増加数	社会増加率	
県	2,566,077	244,347	19.5	23,703	0.9	26,696	1.1	
県北平坦	778,615	73,246	9.5	792	0.1	1,380	0.2	
県北山間	305,126	21,813	7.2	△643	△0.2	△1,002	△0.3	
鹿行	238,970	23,080	9.8	886	0.4	△476	△0.2	
県南	723,193	89,026	12.8	20,726	3.0	25,416	3.8	
主な増加市町村	学園都市 関係町村	128,261	21,109	17.6	6,981	5.8	11,588	10.8
	取手市	71,953	11,051	15.9	2,419	3.5	3,460	5.3
	牛久町	40,832	6,235	16.6	2,963	7.9	2,758	8.0
	藤代町	26,577	3,639	14.4	1,351	5.4	1,704	7.3
	利根町	15,110	3,637	28.9	2,559	20.4	1,634	15.1
伊奈村	22,509	3,235	15.8	1,895	9.2	1,590	8.5	
県西	520,173	37,182	7.2	1,942	0.4	1,378	0.3	

表一11 地域別、社会増加・転入・転出者数

(単位:人,%)

地域	51年			52年			53年			54年			55年			
	社会 増加	転入	転出	社会 増加	転入	転出	社会 増加	転入	転出	社会 増加	転入	転出	社会 増加	転入	転出	
県	人数	12,661	124,795	112,134	15,344	125,809	110,465	25,400	133,838	108,438	26,696	138,748	112,052	23,703	134,025	110,322
	%	0.5			0.6			1.0			1.1			0.9		
県北 平坦	人数	623	32,547	38,167	2,063	38,973	36,910	2,628	39,449	36,821	1,380	38,829	37,449	792	37,019	36,227
	%	0.1			0.3			0.3			0.2			0.1		
県北 山間	人数	△504	17,967	12,228	△1,170	11,675	12,845	△1,182	10,831	12,013	△1,002	11,094	12,096	△643	10,585	11,228
	%	△0.2			△0.4			△0.4			△0.3			△0.2		
鹿行	人数	△166	13,136	13,302	△508	11,858	12,366	△104	11,503	11,607	△476	11,174	11,650	886	11,983	11,097
	%	△0.1			△0.2			△0.0			△0.2			0.4		
県南	人数	11,348	40,399	29,051	13,546	42,795	29,249	21,768	51,029	29,261	25,416	58,190	32,774	20,726	54,876	34,150
	%	1.8			2.1			3.3			3.8			3.0		
県西	人数	1,360	20,746	19,386	1,413	20,508	19,095	2,290	21,026	18,736	1,378	19,461	18,083	1,942	19,562	17,620
	%	0.3			0.3			0.5			0.3			0.4		

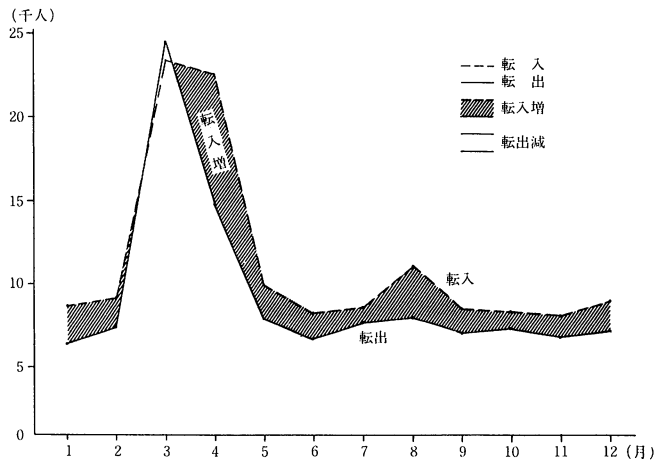
* 外国人を含まない。

64歳が114,393人で46.8%，15～24歳が71,529人・29.3%，0～14歳が51,985人・21.3%，65歳以上6,440人・2.6%となっている。

これを転入，転出でみると，15～24歳階層が転出超過(649人)となっているが，他の階層はいずれも転入超過である。

地域別にみると，移動数において各年齢階層ともに県南が他の地域を大幅に上回っている。転出超過となっている15～24歳階層では，県北山間(1,746人)，県西(832人)，鹿行(77人)が転出超過であり，県南及び県北平坦は転入超過となっている。また，鹿行は前年0～14歳，15～24歳が転出超過であったが今回は15～24歳のみとなり，県北山間は前年に引き続き15～24歳で，大幅な転出超過であり，65歳以上階層でも若干の転出超過となっている。

図一11 昭和55年月別転入・転出状況



表一12 年齢階層別転入・転出状況

(単位：人，%)

年齢階層	移動総数	移動割合	転入	転出	社会増加数	増加割合	性比
総計	244,347	100.0	134,025	110,322	23,703	100.0	112.6
0～14歳	51,985	21.3	30,707	21,278	9,429	39.8	103.1
15～24 "	71,529	29.3	35,440	36,089	△ 649	△ 2.8	117.3
25～64 "	114,393	46.8	64,280	50,113	14,167	59.8	118.5
65歳以上	6,440	2.6	3,598	2,842	756	3.2	59.2

表一13 地域別にみた年齢階層別移動状況

(単位：人)

年齢階層	区域	県	県北平坦	県北山間	鹿行	県南	県西
移動総数		244,347	73,246	21,813	23,080	89,026	37,182
0～14歳		51,985	14,900	3,528	4,845	21,302	7,410
15～24 "		71,529	22,599	8,154	6,965	21,573	12,238
25～64 "		114,393	33,918	9,396	10,748	43,668	16,663
65歳以上		6,440	1,829	735	522	2,483	871

(統計課・人口労働統計グループ)